

なぜ？法経教室の謎

京大の本部構内、時計台記念館の北側にある法経本館。法・経済学部以外の人にはあまりなじみがないかもしれないが、実は教室の配置がバラバラになっている。今回はこの謎を追ってみた。（このは）



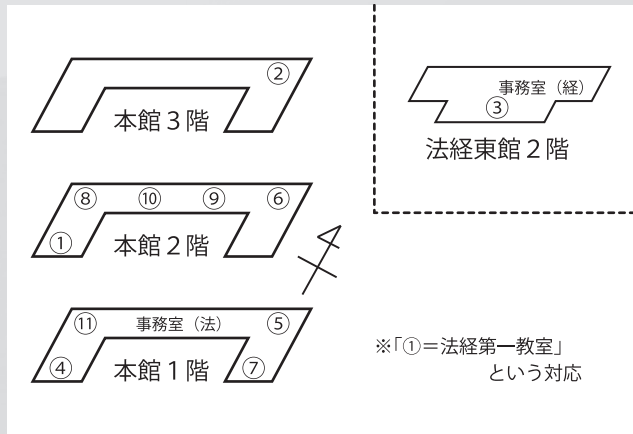
さっぱりわからない法経教室

コの字型をした法経本館は、右図のように教室の配置がバラバラとなっている。そのため、多くの学生がよく教室の場所がわからなくなって困ってしまう。

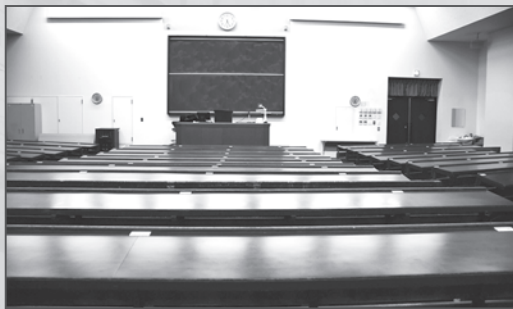
今回、覚え方として第三教室を除いて南西から順に、以下のような語呂合わせを遊び心で作ってみた。

- 3階：**「にーさんかい？」
2階：「2回不意打ちやっどく？」「無理」
1階：「そもそも1回も武器が仕入れ分来ないぞ……。」

覚え方はさておき、そもそもどうしてこのような教室の配置になっているのだろうか？



実におもしろい法経教室



▲第四教室は、フジテレビの連続ドラマ『ガリレオ』のEDなどの撮影で使われた教室でもある



▲法学部の講義がよくおこなわれている教室にはいかにも法学部らしい張り紙がある。これも法経教室の特徴だ

今回、過去の法学部の便覧や経済学部の『授業計画及び講義概要』にある配置図や『京都大学百年史』を参考に調査をおこなった。

調査によると、昔の第一、第二、第三教室は現在の時計台記念館（1924年建設）の1階にあったようだ。その後、1933年～53年の間、第四教室がある西部分、法学部の事務室がある中央部分、第六教室がある東部分の順に西から東へ法経本館が作られ、第四～第七教室はだいたいこれに沿っている。第八教室ができた時期は不明であるのだが、1970年には第四～第八教室は現在の位置にあったようだ。

そして、平成になって大きな変化が起こる。一つは時計台記念館にあった第一教室などが教室番号を変えずに移動したことである（※第二教室と第三教室は別の建物への移動も経て現在の位置に）。もう一つは第九～第十一教室が、新しい教室番号をつけられて順に新設されたことだ。既存の教室番号をそのままにして新たな教室が加わった結果、現在のようにバラバラな配置となったのである。

また、今回の調査で発覚した衝撃の事実としては、
 ①2002年～03年の間、法経本館から300m以上離れた吉田南構内の学術情報メディアセンター南館地下に第二教室があったこと
 ②2002年～07年の間、文学部東館1階にはなんと法経第0教室が存在したこと（※現在は存在しない）
 があげられる。今なお謎は多いが、法経教室の謎は実におもしろい。

はみだし
すてーじ

はみだしはいいぞ。
⇒ガルパン……

(工・院 シシリエンヌ)
(らいふすてーじもアニメ化するかな；編)